

ユネスコ無形遺産 曳山伝統と女人禁制

二〇二六年十二月、ユネスコの無形文化遺産に日本全国三三の祭り「山・鉦・屋台行事」の登録が決まった。それぞれの屋台行事には、歴史的な謂れや地域の人たちの熱い思いが込められており、祭りの維持などに悩む地元にとっては大きな力になるにちがいない。私自身、昭和五〇年代の研究者時代から水環境調査を中心に町づくりにかかわってきた長浜の曳山が登録されたことは大変感慨深い。

長浜の曳山は特に「芸山」と言われ、豪華絢爛な山は、長浜町衆の先取性とそれを支える経済性の賜物ともいわれている。舞台では男子による子ども歌舞伎が演じられ、八幡神社への奉納がなされる。今も「女人禁制」で曳山運行への女性参加は禁じられている。

毎年一ヶ月以上かけて芸を仕込み子ども役者に育てあげていくのは若い衆の責任だ。若い衆の多くは子ども役者だった。曳山祭に不可欠な三役（振付・太夫・三味線）とシャギリも地元で担い手が養成されている。こうして世代をつなぐ祭りを支えたコミュニティが、町づくりの拠点の黒壁再生などを果たした社会関係資本ではないかと私は思っている。

長浜曳山について語るとどうしても思いおこす人がいる。市内中心部を流れる米川支流の浄化活動に最晩年の命を注いだ片野喜代土さんだ。片野さんは南片町といういわゆる遊郭街で大正三年に生ま

嘉田 由紀子

プロフィール
1950年埼玉生まれ。京都大学探検部時代のアフリカ調査から水と環境の大切さを痛感。ウイスコンシン大学大学院、京都大学大学院修了。農学博士。1980年代より水と人の関係性研究を琵琶湖、アフリカなどで進める。琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学教授を経て2006年から2014年まで滋賀県知事。2014年からびわこ成蹊スポーツ大学学長

れずつとそこで育った。家の中には米川支流が流れ、夏のホタルやゴリ、秋のビワマスなど、まさに四季の自然が豊かな遊郭街だった。子ども時代から曳山に登りたかったが、「女の町のもんは乗せられない」と拒否され、さびしい思いもしてきたという。数年間片野さんとお付き合いをさせていただき、なぜあれほどまでに米川の清浄さを取り戻す運動に命を注いだのか、ある時ふっと理解した。「そうだ、米川は片野さんにとっての曳山だったのではないか！」と。平成二年六月、ホタルが蘇った米川ぞいの自宅で七六歳の人生を閉じた。

それから十八年後の平成二〇年四月、滋賀県知事となった私に、長浜市長とともに曳山祭りの役者行列の先頭を歩く役を下さった。氏子組の間で一年以上議論をして、歴史始まって以来の女性参加となったようだ。ただ、実はこの渡り行列にはひと工夫凝らされていた。氏子総代が先頭のそれまでの行列の配置を変えて、総代を最後尾にもつていき、いわば先頭部分は神とかかわらない分離空間に仕上げたのだ。見事な差配である。伝統を維持しながら、前例のない女性知事の受入空間を生み出し、氏子集団の中での合意形成を図ってきたのだ。

夕渡りの晩、私は米川の横を歩きながら、「片野さん、長浜の町では、片野さんが理想とする徹底合意の町づくりがすすんでいますよ！」と心の中で報告した。

月刊 みんなぱく

2月号目次

- | | |
|--|--|
| <p>1 エッセイ 千字文
ユネスコ無形遺産 曳山伝統と女人禁制
嘉田 由紀子</p> <p>特集 災害を越えて</p> <p>2 東日本大震災の経験に学ぶ
竹沢 尚一郎</p> <p>4 被災地のまちづくりの主役は誰か？
白澤 良一</p> <p>5 三陸は芸能の宝庫
日高 真吾</p> <p>7 鬼神殿にみる震災復興のかたち
—熊本県西原村から
藤本 延啓</p> <p>8 歴史資料ネットワーク
—阪神・淡路大震災以来の歴史資料保全の歩み
奥村 弘</p> <p>10 ○〇してみました世界のフィールド
エジプトの空手稽古
相島 葉月</p> | <p>12 みんなぱく Information</p> <p>14 味の根っこ
オタマジャクシのナムブリック
飯田 淳子</p> <p>16 文化遺産おもてうら
エルサルバドルの芸術と大聖堂
—何に価値をおくのか？
村野 正景</p> <p>18 手芸考
「おのくん」とバンセ・ソバージュ
杉本 星子</p> <p>20 ながなんちゃ
子どもの名前どうする？
蔡 照鏡</p> <p>21 次号予告・編集後記</p> |
|--|--|